

The 38th

# TOKYO MOTOR SHOW

Commercial & Barrier-free Vehicles

2004



## News vol.3 平成16年11月5日

第38回 東京モーターショー2004 働くくるまと福祉車両



一般公開後初の平日を迎えた4日は、カラッとした秋晴れに恵まれ、来場者の出足は好調。この日はビジネスマンの中高年層の来場が多く、西ホールにある「モーターカフェ(商談コーナー)」も繁盛、商用車ショーらしい雰囲気にも包まれていた。また地元(千葉県内)小学校の児童たちが社会見学を目的に団体で訪れ、会場を賑わしていた。

### アイデアあふれるオシャレな“働くくるま”をアピール

### 日産自動車

東ホールにある日産自動車の展示コーナー。日産ディーゼルと統一感を持たせたブースデザインはアイボリーホワイトとグレー、それにレッドの3色を基調としており、清潔感が漂う。ブース中央には広々としたステージと、その左側奥にカフェラウンジを“特設”、商談を兼ねた来場者の出入りも目立つ。

今回のテーマは「もっとあなたのパートナーに」。展示コ



▲新発想の「キャラバン ボックス イン ボックス」

ーナーは福祉車両と商用車とがほぼ半分で分かれているが、市販の商用車は環境にやさしい「アトラス」のCNG車からスーパーリムジンバスの「シビリアン」、さらに、



▲商談スペースにも使われるラウンジを特設。

軽トラック・バンの「クリッパー」まで豊富。注目のマトはステージ上の「キャラバン ボックスイン ボックス」だ。日産の代表的な商用車「キャラバン」をベースに、「移動」「運搬」という本来の機能に「ディスプレイ」という新たな機能をプラスした新発想の参考出品車。バックドア、スライドドアからディスプレイボックスをスムーズに引き出し、それを展開するとスーツなどのアパレル製品の陳列ができる仕掛けだ。また、駐車スペースさえあれば、移動ショールームとして使用することも可能である。

アカペラグループによるオリジナルソングを唄いながらのプレゼンテーションもユニークで、アイデアあふれるオシャレな“働くくるま”をアピールしている。

### 独自開発の「尿素SCRシステム」に熱い視線

### 日産ディーゼル

「先進の技術を核に生まれ変わった日産ディーゼルをこの会場でアピールします」——仲村巖社長はプレスブリーフィングでこう力強く訴えかけた。

出品車両は6台。今回の目玉は、トラックの排ガス対策として、超高压噴射と尿素SCR触媒を組み合わせた新しい浄化技術を独自開発し、その尿素SCRシステム「FLENDZ(フレンズ)」を搭載した次期主力大型トラック「Quon(久遠)」を初めてお披露目。燃費性能を低下させることなく世界で最も厳しい平成17年(新長期)排ガス規制をクリア、国土交通省の型式認証を11月1日付で取得した。



▲近く発売予定の尿素SCRシステムを採用した大型トラック「Quon」

▲独自開発した尿素SCRシステム「フレンズ」のカットモデル

技術展示コーナーでは、尿素SCRシステム「FLENDZ」のカットモデルを展示、排出ガス浄化の流れをわかりやすく紹介しており、エンジニア系の来場者から熱い視線が注がれている。





▲デモンストレーションでは“カラクリシート”を実演

西ホールで異彩を放っているのがマツダのブース。ステージの壇上には発表したばかりの新型ミニバン「プレマシー」2台を展示、デモンストレーションではニューファミリーが“Zoom-Zoom”(ズーム・ズーム)という軽快なリズムに乗って飛び跳ねている。

プレスブリーフィングで井巻久一社長は「2002年よりテーマとしているズームズームを、商用車や福祉車両にも展



◀▲豊富なバリエーションの商用車を展示

開する」と強調した。新型「プレマシー」は「6+1」(シックスプラスワン)と呼ばれる“カラクリシート”が特徴で、通常はセパレートのセカンドシートが必要な時にベンチシートに早変わりするカラクリだ。

福祉車両を含めた展示車両は17台。コンセプトカーよりも市販車を中心である。アイドリングストップ機能とカード式キーレス機能を組み合わせた「タイタングッシュ」なども出品。

技術展示コーナーのハイライトは、実用化に向けて研究開発に取り組んでいる「RENESIS水素ロータリーエンジン」を前回のショーに引き続きアピール。このほか高度運転支援技術などのオリジナル安全技術を紹介している。

トピックス  
TOPICS

大人も子供も楽しめる「働くくるまと働く二輪車体験ゾーン」

巨大なダンプトラックから消防用二輪車まで、大小さまざまな業務用車両に接することができる「働くくるまと二輪車体験ゾーン」が大人気だ。子供連れの来場者はもちろん、ビジネス目的で訪れた商用車ユーザーも、バラエティ豊かな展示に思わず足を止めていた。



▲CATアーティキュレートダンプトラック  
キャタピラー製の大型重機。子供の人気が高く、運転席試乗の待ち時間は一時、80分にも。直径180cmという巨大タイヤの前で記念撮影をする姿が目立った。



▲ポンプ車  
工事用車両。「全般的に大きい車の人気が高いですね」(ブースの説明員)



▲水路付先端屈折式はしご車  
◀消急車  
はしご車は毎日先着20名限定での体験。消防車と救急車の一台二役をこなす世界初の「消急車」は、現場で働く消防士の要望を取り入れて作られたモデルだ。



◀パトカー  
千葉県警はトヨタ・クラウン、マツダRX-7ベースの2台のパトカーと、ホンダ・ゴールドウイングベースのサイドカー付き白バイを展示。「子供たちがこれを見て、警察官になりたいと思ってもらえると嬉しいです」(千葉県警関係者)



▲二輪ライディングシミュレーター  
二輪車免許取得者限定のシミュレーター。通常のフルブレーキング、側道から他車両が飛び出したときの緊急ブレーキを行い、ブレーキのかけ方やタイミングについてプロのライダーから講評してもらえる。



▲シートベルトコンビンサー  
シートベルトの効果が体験できる装置。設定速度は時速5kmほどだが、体験者はベルト未着用だと体が大きく前のめりになることに驚いていた。



◀白バイ  
排気量1.2リットル級のスーパーバイクをベースに取り締まり用装備を付加した白バイ。

二輪車ゾーン



▶ミストドラゴン  
消防用二輪車。高圧ボンベから霧を噴出する消火装置を備え、車両火災2台分の消火作業をこなせる。大人、子供を問わず人気が高かった。

## 車体



## 環境、バリアフリーコンセプトで次世代商用車のあり方をアピール

中央ホールの車体メーカーエリア。日産車体はバリアフリーモデル、LCV(ライフケアビークル)を展示のメインに据えている。マイクロバス「シビリアン ハートフルサルーン」は、車体後方に車いす用のリフターを備え、車いすのまま車内に乗り込み、車いすを床面に固定することができるというものだ。

日本トレクスは、環境を前面に押し出したボディを提案。



▲CO<sub>2</sub>吸収力に優れたアカシアを使用した日本トレクスのトラックボディ

床面の部材にはアカシアの植林早生樹を使用。自然木が約100年で成木となるのに対し、15年ほどで製材できるという成長の早さで、成長時には大量のCO<sub>2</sub>を吸収するという。ほか、ウレタンレスの省資源アルミボディ、中国企



▲車いすを使用したまま乗車できるシビリアン ハートフルサルーン

業との合弁生産による低価格トレーラーも展示している。

特装ボディを主力とする新明和工業は、塵芥収集車、パワーリフター車などを出品。塵芥収集車はごみを掻き入れるさいの動力に専用の小型エンジンを使用することで、低騒音を実現した。深夜、早朝の市街地でもごみ収集を可能とするモデルだ。

## 部品



## 長足の進歩をとげる商用車の事故防止技術

環境対応と並び、世界の商用車業界においてもっとも重要とされる安全技術。多くの部品メーカーが、最新の安全技術についてデモンストレーションを行っている。

アイシンプースはアイシングループ6社が共同展示。大型車の横転、アンダーステアなどを防止する最新のESC(電子制御車両安定システム)やITS関連の安全技術を紹介。デルファイ・オートモーティブは車両の死角の解消、運転者への注意喚起や疲労軽減技術などを統合した安全コンセプト、コクーン(まゆ)・オブ・セーフティを提唱している。



▲トラックの後方視界確保に便利と好評な市光工業の後方確認システム

デンソーは最新のドライバーモニタリングシステムを展示している。これは高度な画像

処理システムによってドライバーの居眠りや注意力低下を察知し、危険なときには扇風機を作動させるなどの方法で“揺り起こす”というものだ。市光工業は大型トラックへの装着が進んでいるCCDカメラによる液晶ルームミラー型後方確認システムなどを紹介している。



▲大型車の車両安定システムほか安全技術が満載のアイシンプース

処理システムによってドライバーの居眠りや注意力低下を察知し、危険なときには扇風機を作動させるなどの方法で“揺り起こす”というものだ。市光工業は大型トラックへの装着が進んでいるCCDカメラによる液晶ルームミラー型後方確認システムなどを紹介している。

## 地元小学校の児童らが大型車、福祉車両のページェントに歓喜の声

東京モーターショーには、一般客、ビジネス客のほか、地元千葉市の小学校児童らが団体で見学に訪れる。一般公開後初の平日となった4日、会場内の至るところで小学生がクルマを見ては歓声を上げる姿が見られた。

幸町第三小学校5年2組を引率していた佐藤幸徳先生は、「東京モーターショーに子供たちを連れてきたのは初めてだったのですが、思った以上に子供たちの反応がいいですね。皆、目をきらきら輝かせてクルマを見てますよ」と語る。

住吉恭茂君は、「働くくるまと働く二輪車体験ゾーン」がお気に入り。「クルマにじかにさわって、とても楽しかったです。一番面白かったのは、モリタの消息車(消防車と救急車の一台二役をこなすクルマ)でした。いつか、自分でも運転してみたいです」。新田智佳さんは「座席が面白い形をしている(日野自動車ブースの)ハイブリッドバスが好きです。あれが町を走りはじめたらぜひまた乗りたいです」。

東京モーターショーの目的のひとつに、未来の自動車ユーザーである子供たちにクルマの魅力を訴求するというものがある。展示内容の充実ぶりや会場内のレイアウトの工夫などにより、その目的は十分に果たされているといえそうだ。



トヨタ自動車

ドライバー、パートナーともハッピーな「Welcab concept」

メーカーの中で最も多い12台を出品したトヨタ。この10年で10倍、年間販売4万台強にまでなった福祉車両市場で、ウェルキャブシリーズは実に6割のシェアを占める。

福祉車両で唯一の参考出品車「Welcab concept」は、ドライバーも助手席のパートナーも一切介助なしで車いすのまま乗り降りできる優れモノ。身障者のカップルが誰に気兼ねすることなく、2人のドライブを楽しめる夢を切り拓いた。

電動リフトに乗って運転席へ、車いすがそのまま運転席となる。ドライビングポジションはリモコン調整でOK。助手席は脱着タイプの電動リフトアップシートを採用しているので、外出先ではそのまま電動自操式の車いすとして使用できる。車外へは回転してスライドダウン。車いす自体もポップなデザインだけでなく、シートベルトを内蔵する機能が自慢だ。



内も外もモダン▶  
ートな「ウェルキャブ  
概念」

日野自動車

ドアからシートまで伝い歩きできる「ポンチョL」

ポンと乗って、チョっと行ける感覚の「ポンチョL」は、バリアフリー社会に打ってつけのノンステップ小型コミュニティバス。室内中央に、乗降口からシートまで伝い歩きができるシステム手すりのスタンションポールを新提案。

空調・温水・照明の電源にハイブリッドシステムを利用する「ハイブリッド・移動サービス車」が、車いすの方のために“移動理容室”として出品されている。



▲ユニバーサルデザインの「ポンチョL」

ダイハツ工業

自操式福祉車両の「ミラセルフマチック」が目玉

ダイハツの福祉車両は市販予定車2台を含む4台の出品。目玉商品は近く市販予定の自操式「Mira Selfmatic」だ。リモコン式の自動乗り込み装置によって、車いすのまま一人で直接運転席に乗り込める。両手のみで運転できる運転補助装置を整備。大人4人が乗れるスペースもしっかり確保した。

足が不自由な人には朗報のミラセルフマチック



シンポジウム

11月4日(木)13:30~15:00/国際会議室

考えよう!心の運転!  
~交通安全シンポジウム~

(社)日本自動車工業会

- 司会 渡辺人美氏(フリーアナウンサー)
- パネリスト 黒沢年雄氏(俳優・歌手) 竹岡圭氏(モータージャーナリスト) 脇阪寿一氏(レーシングドライバー)

2003年の事故死者数は46年ぶりに8000人を下回ったものの、事故発生件数は相変わらず増え続け、過去最高を更新中だ。事故を減らすにはどうすればいいのかということについて、パネルディスカッションが行われた。高齢化社会の進行が論点のひとつとして挙げられ、反応や運動能力が低下した高齢者ドライバーを保護する道路交通安全システム、交通道德の必要性を、パネラー全員が指摘した。会場には若年層の姿が目立ち、安全に関する議論に関心を示していた。



11月4日(木)13:30~15:00/中会議室201

次世代物流システムとITS  
~多様化時代におけるトラック輸送~

(社)日本自動車工業会

- コーディネーター 竹内佐和子氏(都市デザイナー)
- パネリスト 家田仁氏(東京大学大学院工学系研究科教授) 湯原哲夫氏(東京大学大学院工学系研究科教授) 樋口恵一氏(川崎陸送社長)

トラック輸送にITSが拡大活用されると、物流はどう進化していくのか——このテーマをめぐって各出席者がまず竹内、樋口、家田、湯原の各氏の順にそれぞれ専門の立場から、トラック業界の現状、実践型ITS、重要性が高まるアジア物流について解説。続いてトラック物流へのITS導入インパクト、将来型ITSの可能性、それを見越したインフラ・街づくり、アジア物流の中心として日本の役割などについて活発に議論が交わされ、満員の聴衆は熱心に聞き入っていた。



参加・体験型イベントが盛りだくさん!



トラフィック戦隊アンゼンジャー (南休憩ゾーン)

・11:00~11:25 ・14:00~14:25 ・15:30~15:55

キャンプ・ネ波斯(南休憩ゾーン)

・11:35~12:00 ・13:30~13:55

シンポジウム

世界最先端の低害車づくり 国際会議室  
10:30~13:30 事前登録者優先

トラック重大事故への挑戦 中会議室201  
14:00~17:30 事前登録者優先